

クウェイト

STATE OF KUWAIT

任国情報

1990年

国際協力事業団
国際協力総合研修所

国際協力事業団

20877

は し が き

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家、JICA事務所員、プロジェクト調整員、協力隊調整員とその御家族の多大なご協力を得ました。また、外務省、在外公館その他機関のご好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたく存じます。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

JICA LIBRARY

平成2年2月

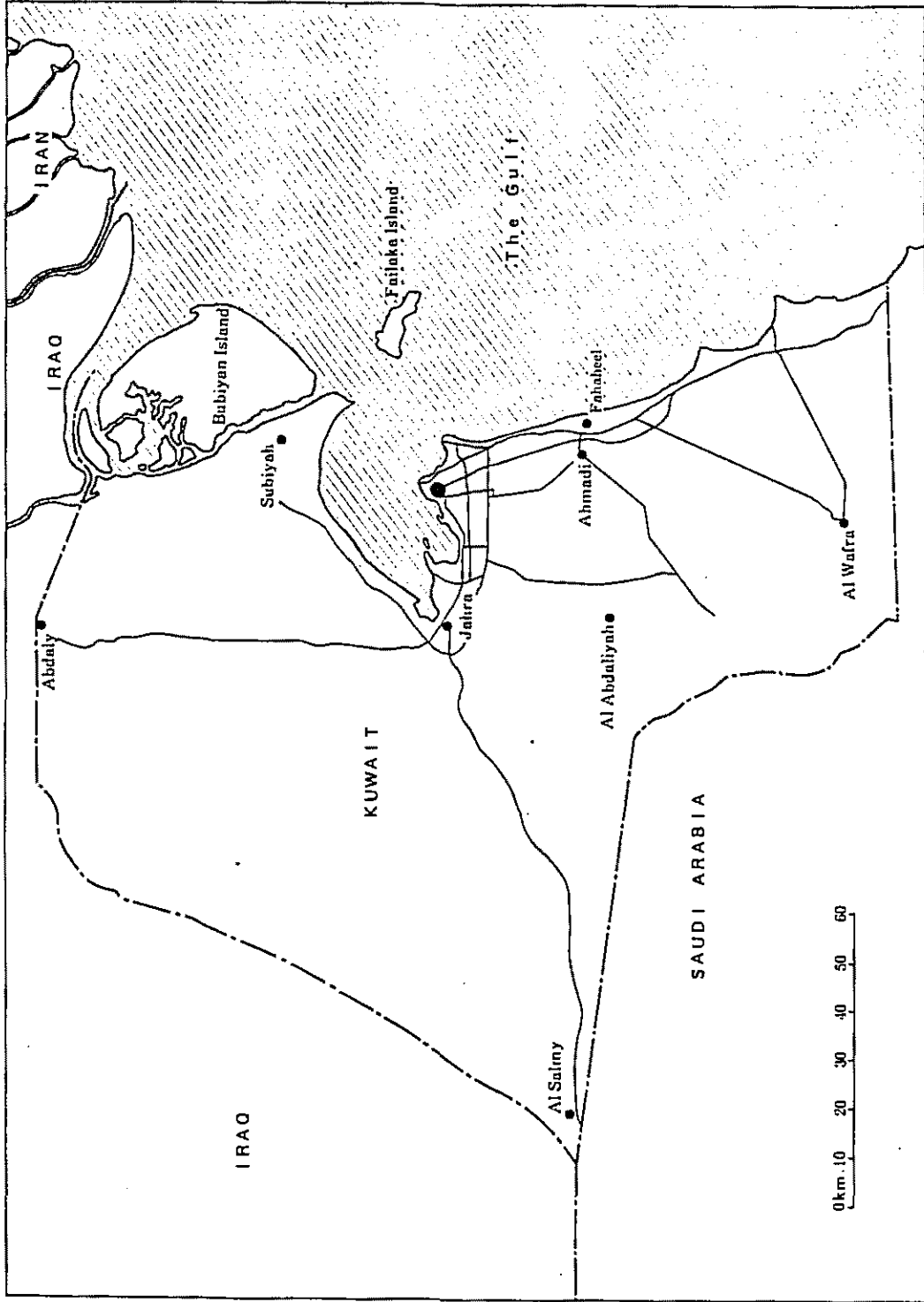


1080888191

20211

国際協力事業団
国際協力総合研修所所長

クウェイト



目 次

	頁
I 一般事情	
1. 主要指標	1
2. 略 史	3
3. 政治, 外交	5
4. 経済事情	6
5. 我が国との関係	12
II 生活事情	
1. 食生活	16
2. 衣 料	20
3. 住 宅	22
4. 医 療	24
5. 教 育	29
6. 家庭の使用人	31
7. 交通事情	32
8. 通 信	34
9. マスコミ	36
10. 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ	37
11. その他のサービス	41
12. 観 光	42
13. 治安, 緊急時の心得	48
14. 出入国手続きおよび帰国手続き	50
15. 私財の輸送, 引取り, 購入	53
16. 社 交	55
17. 任国公官庁	57
18. 在外日本関係機関等	60
19. 地方都市	61

I 一般事情

1. 主要指標

- 1-1 国名 クウェイト国 State of Kuwait
- 1-2 独立 1961年6月19日 (旧宗主国:イギリス)
- 1-3 首都 クウェイト Kuwait
人口 16万8,000人 (1985年)
- 1-4 面積 17,686平方キロメートル (ほぼ岩手県に等しい)
- 1-5 気候

高温多湿で、降雨量はきわめて少ない。国土の大部分は砂漠。6,7月は砂嵐の日が続くことがある。夏には気温が50℃におよぶ。

クウェイトにおける平均気温表

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均気温	12.8	14.5	18.6	24.2	29.7	32.2	34.8	35.0	32.5	27.8	20.9	15.0
降水量	23	23	28	5	0	0	0	0	0	3	15	28
平均湿度	69	65	67	61	61	56	43	48	52	62	63	71

- 1-6 人口 (1987年) 187万人
- 1-7 人種構成 アラブ人
- 1-8 言語 アラビア語
- 1-9 宗教 イスラム教 (スンニー派約2/3, シーア派約1/3といわれている)

主要指標

1-10 政治

- (1) 政体 首長制(サバーハ家一族が世襲的に支配)
- (2) 元首 ジャビル・アル・アハマド・アッ・サバーハ首長
JABIR al-Ahmad al-Sabah
- (3) 議会 一院制国民議会(50議席,任期4年)
- (4) 政党 この項未調査。

1-11 経済

- (1) GDP(1988年推定) 56億クウェイト・ディナール
- (2) 主要産業 鉱工業:石油化学製品,化学肥料,セメント
石油:確認埋蔵量 919億バレル(1986年)
産油量 132万B/D(1987年)
- (3) 貿易(1988年推定) 輸出(FOB) 80億ドル
輸入(CIF) 52億5,000万ドル
- (4) 財政(1988/89予算) 歳入 20億5,400万クウェイト・ディナール
歳出 34億クウェイト・ディナール
- (5) 通貨 通貨単位:クウェイト・ディナール
(Kuwait Dinar)
略号:KD
為替相場:1US\$=0.29860(1989年10月末)
- (6) 外貨準備高(1987年) 33億9,430万ドル
- (7) 対外債務(1988年) 82億1,000万ドル

1-12 日本との時差

時差は6時間で,日本の正午はクウェイトでは午前6時である。

2. 略 史

クウェイトの存在が注目をひくようになったのは16世紀に入ってからで、ヨーロッパ列強がインド貿易の独占的支配を狙って相次いで湾岸に出現し、熾烈な競争を展開するに至り、クウェイトもその争奪対象となった。

クウェイトに最初に進出したのはポルトガル人で16世紀初頭ここに城塞を構築し、湾岸防衛の一拠点とした。クウェイト(アラビア語で小さな城塞の意味)の国名はこの当時の呼称に由来するものである。

17世紀に入るとポルトガルの勢力は衰微し、これに代ってオランダが登場するが、そのオランダも18世紀にはイギリスの前に姿を消しクウェイトをはじめ湾岸一帯はイギリスの影響下に入る事となる。

一方、クウェイトに国家としての基礎が形成されるのは、18世紀初頭アラビア半島中央部からバニ・ウトバ族がクウェイトに移住し、ここに町を建設したときである。一族の中心となるのはサバーハ家で、その家長サバーハは住民の信望を集め、1756年住民を代表する首長に選ばれたが、これが現在のサバーハ首長家の起源である。

クウェイトは1899年イギリスとの間に保護条約を締結し、イギリスの保護国となり、その結果クウェイトは軍事・外交面においてイギリスの保護を受ける一方、イギリスの同意なくして他の外国との間に領土の割譲ないし貸与、条約締結、外交関係設定等を行わない義務を負う事となった。

その後、1938年のブルガン大油田の発見等によりクウェイトは世界有数の産油国となり、特に1950年代以降の莫大な石油収入をもとにした旺盛な経済活動に伴い近隣諸国からの人口流入は年々膨張の一途をたどり、次第に国家としての基礎が確立していった。この様な中で遂に1961年6月19日、クウェイトはそれまでの62年間にわたるイギリスの保護国たる地位を脱し、完全な独立を達成するに至った。

略 史

- 1950年 アブドゥラー首長即位(1965年まで)
- 1961年 6月 独立
- 7月 アラブ連盟加盟
- 12月 制憲議会
- 1962年 11月 憲法発布
- 1963年 5月 国連に加盟
- 1965年 11月 サバーハ首長即位(1977年まで)
- 1973年 3月 イラクとの国境紛争
- 1976年 8月 8月政変(憲法の一部, 国民議会停止)
- 1977年 12月 ジャービル首長即位
- 1978年 2月 サアド内閣成立
- 1981年 2月 総選挙
- 3月 国民議会召集
- 5月 湾岸協力評議会(GCC)加盟
- 1982年 8月 スーク・マナーハ事件
- 11月 国民議会, 憲法改正案採択
- 1983年 12月 米・仏大使館爆破テロ
- 1985年 2月 第6回国民議会選挙
- 1986年 7月 議会解散, 憲法部分的停止

3. 政治, 外交

3-1 最近の政情

クウェイトは過去2世紀にわたりサバーハ首長家で統治してきた君主国であり、1961年の独立後も同家内より選ばれた首長を元首としている点に変わりはないが、1962年近代憲法が制定されたのに引き続き翌月議会(一院制)が開設されて、三権分立に基づく統治形態がとられるようになった。

最近のクウェイト内政は、1985年5月のジャーベル首長暗殺未遂事件、7月の市内連続爆破事件、1986年6月のKOC石油施設爆破事件等、治安上の問題が表面化している。政府はこれら一連のテロ事件の対策として外国人不法滞在者(10万人以上とみられる)の国外退去処分、警察官の増員、住民登録制度(指紋登録を含む)の導入等、種々の施策を講ずるとともに、テロリストの脅迫には屈しないとの強い姿勢を示している。

経済政策、就中マナーハ株式市場問題(先付小切手による株式売買に端を発した投機事件)の解決策をめぐり政府と議会との関係が悪化していたが、1985年10月の第2会期において議会はアリ・ハリーフ石油・工業相、ホラフィ財政相等を激しく批判、両者の対立は深刻化した。

ジャーベル首長はこうした議会の動向が国内政治を混乱させるとし、1986年7月、サアド皇太子兼首相を除く全閣僚が辞表を提出した動きを受けて勅令により議会を解散した。また同月には、サアド皇太子兼首相を首班とする新内閣が組閣された。

3-2 外 交

湾岸の安全保障と団結および非同盟主義と相互主義に基づいた国際協力を基礎とし、西側諸国と良好な関係を維持するとともに、ソ連、中国をはじめとする共産国諸国とも外交関係を有している。

イラン・イラク紛争に関してはイラク向け物資のクウェイト領通過の容認、イラクに対する借款供与等、実質的にイラク寄りの姿勢を示している。

中東問題については、1978年9月のキャンプ・デービッド合意以後、反エジプト姿勢を明確化し、1979年4月、バグダッド・アラブ外相・経済相会議の決定を受けて湾岸穏健産油国の先頭を切って対エジプト外交・経済関係を断絶した。しかしエジプトの国際社会・アラブ世界における役割は無視しえず、1987年11月の臨時アラブ首脳会議の決定後ただちにエジプトと外交関係を再開した。

経済事情

4. 経済事情

4-1 概 観

クウェイトを取り巻く外的環境は、石油価格の大幅回復を除けば昨年同様厳しいものであった。約8年間にわたったイ・イ戦争のあおりを受けクウェイトの仲介貿易量は大きく減少し、ドルの急激な下落は石油収入の購買力を弱めて国内商業活動の鈍化を余儀なくした。10月の世界的な株価暴落はクウェイトの株式資産にも影響をおよぼした。

これに対しクウェイトは、国内経済活性化のため、国内貸し出し上限金利の引き下げ、不良貸し出し問題の解決、国債発行を行った。

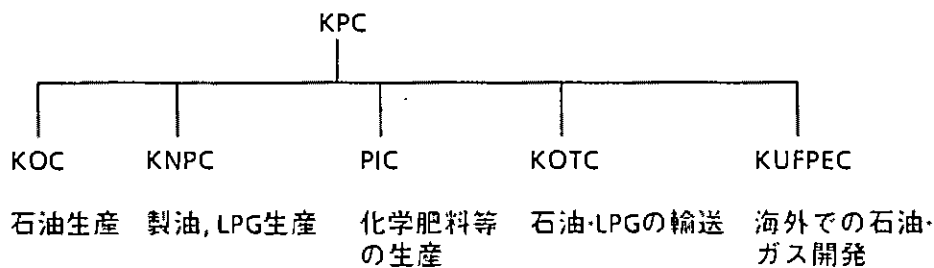
4-2 産 業

国内総生産の産業別構成 (単位:万クウェイト・ディナール)

	1982	1983 ^a	1984 ^a	1985 ^a	1986 ^b
石油部門	27億6,350	30億3,790	34億0,010	29億8,320	18億4,180
非石油部門	33億6,540	30億2,270	29億1,630	28億7,470	30億9,690
農・漁業	2,850	2,840	3,490	3,940	5,190
製造業	3億0,990	3億7,630	3億0,320	3億7,820	5億5,630
電気・ガス・水	-2億3,070	-2億2,100	-1億7,820	-1億5,050	-9,410
建設業	2億6,220	2億7,400	2億7,220	1億9,800	1億5,600
卸・小売業	7億1,480	4億9,840	5億2,810	4億9,960	4億7,010
運輸・倉庫・通信	2億9,140	2億7,490	2億6,480	2億3,960	2億5,040
金融	3億6,760	2億9,110	2億7,700	2億2,160	2億1,700
保険	2,760	1,810	2,280	1,940	1,650
その他	15億9,410	14億8,250	13億9,150	14億2,940	14億7,280
合 計	61億2,890	60億6,060	63億1,640	58億5,790	49億3,870

a…推定, b…1~7月(推定)

クウェイトの石油生産は主に国際的需要, 財政収入の必要性, 資源保存への考慮の3点を勘案して行われているところ, 1972年330万B/Dのピークに達した後, 財政収入の必要性が低下する一方, 資源保存が叫ばれたため, 1970年代後半は約200万B/Dで推移した。資源ナショナリズムの台頭を背景に, クウェイト政府は1973年, 原油生産の約90% (アラビア石油AOCおよびWofra石油がそれぞれ約50%) を占めるKuwait Oil Co. (BP, GULFの共同出資会社) の25%事業参加, 続いて1974年60%, 1975年12月100%接収に成功した。またAOCに対しては1974年8月以降事業参加 (60%) している。なおクウェイト石油のマーケティング, 操業等について総合的な判断を下すべく, 1980年1月国内関連会社 (KOC, KNPC, PIC, KOTC, KUFPEC) を一本化しクウェイト石油公社 (KPC) を設置した。



- 原油生産量 (単位千B/D) (旧中立地帯)

1977年	1,783 (365)
1978年	1,865 (466)
1979年	2,213 (567)
1980年	1,382 (540)
1981年	939 (317)
1982年	667 (305)
1983年	888 (392)
1984年	937 (439)
1985年	846 (357)

- 原油確認埋蔵量 900億バーレル (1985年)

経済事情

4-3 財 政

世界有数の産油国で国家収入の約9割を石油収入で占め、これを財源に社会資本、福祉、教育の充実をはかっている。所得水準はアラブ首長国連邦とともに世界のトップクラス。石油枯渇後に備え、膨大な石油余剰資金を投資に活用、その利益で国家財政を賄う「金利立国」を目指している。

国家予算

(単位:万クウェイト・ディナール)

	1985/86	1986/87	1987/88
歳 出	37億7,310	32億3,000	33億5,990
一般支出	34億3,150	30億3,770	31億5,800
予備基金	3億1,160	1億9,230	1億9,790
KFAED	3,000	-	-
歳 入	31億1,600	19億2,340	19億7,940
石 油	28億0,190	16億5,560	17億2,620
その他	3億1,410	2億6,740	2億5,320
債 務			
名目勘定	6億5,710	13億0,660	13億7,650
確定勘定	3億1,550	11億1,430	11億7,860

4-4 貿易,国際収支

貿易収支

(単位:万クウェイト・ディナール)

	1982	1983	1984	1985*	1986*	1987*
輸出(FOB)	31億5,600	33億7,400	35億3,200	31億5,200	21億0,400	23億3,000
石 油	26億1,200	29億3,800	32億5,700	28億4,800	18億5,300	20億9,700
輸入(CIF)	-23億8,500	-21億4,900	-20億4,200	-17億8,500	-16億7,400	-14億7,500
収 支	7億7,200	12億2,400	15億9,100	13億6,700	8億5,400	8億5,400

* 暫定

主要貿易品目 (単位:千クウェイト・ディナール)

	輸 入				
	1980	1981	1982	1983	1984
食糧・家畜	229,939	255,203	293,106	266,638	321,758
飲料・タバコ	22,121	18,637	22,728	25,614	25,021
原料(除・燃料)	29,479	29,393	39,084	27,707	29,597
燃 料	13,435	11,072	14,238	11,712	11,416
動植物油	6,562	7,719	6,543	5,724	6,133
化学製品	74,375	75,185	85,912	93,880	96,818
工業製品	433,230	453,586	527,210	419,837	443,539
機械・輸送機器	638,085	798,189	1,040,239	946,241	790,526
雑貨・その他	307,301	289,605	346,380	342,728	311,491
	10,375	6,797	9,164	8,979	12,715
総 計	1,764,902	1,945,386	2,384,604	2,149,060	2,049,014
	輸 出				
	1980	1981	1982	1983	1984
食糧・家畜	22,548	43,321	38,752	30,905	36,013
飲料・タバコ	3,535	2,676	1,587	1,056	639
原料(除・燃料)	12,019	13,683	12,811	12,778	10,952
燃 料	5,119,185	3,969,225	2,611,456	2,938,207	3,256,914
動植物油	1,288	1,083	2,370	347	654
化学製品	45,918	37,485	18,007	50,385	68,459
工業製品	117,774	179,907	179,104	122,136	90,717
機械・輸送機器	148,192	223,317	202,444	144,547	125,611
雑貨・その他	56,378	59,271	59,135	50,157	44,135
	442	806	2,718	13,239	861
総 計	5,527,279	4,530,774	3,128,384	3,363,757	3,634,955

経済事情

主要輸入相手国 (単位:万クウェイト・ディナール)

	1981	1982	1983	1984	1985	1986
日 本	4億4,200	5億7,580	5億5,160	4億8,630	…	3億9,180
アメリカ合衆国	2億7,180	3億0,300	2億3,870	1億9,270	…	2億0,410
西ドイツ	2億3,280	3億3,260	2億2,430	1億7,750	…	1億5,730
フランス	6,740	8,530	1億2,550	1億7,570	…	6,800
イタリア	1億1,290	1億4,360	1億3,790	1億3,340	…	9,070
イギリス	1億5,190	1億6,750	1億5,370	1億2,860	…	1億0,680
台 湾	5,100	5,650	5,600	4,940	…	4,590
韓 国	5,370	5,770	5,800	4,850	…	5,340
トルコ	1,600	2,880	3,250	4,080	…	4,240
インド	4,300	4,750	4,440	3,570	…	3,390
中 国	3,830	3,860	3,830	3,300	…	2,660
スペイン	2,730	4,370	2,670	3,160	…	1,990
計	19億4,530	23億8,460	21億4,910	20億4,170	17億8,470	16億7,350

主要貿易相手国の比率(1986年) (単位:%)

輸出国		輸入国	
日 本	13.8	日 本	24.0
シンガポール	11.3	アメリカ合衆国	12.8
イタリア	9.6	西ドイツ	9.4
オランダ	7.7	イギリス	8.6
韓 国	4.3	イタリア	6.5
パキスタン	3.3	フランス	5.7
デンマーク	3.0	韓 国	3.0
サウディ・アラビア	2.8	オランダ	2.4
その他	44.2	その他	27.6
計	100.0	計	100.0

国際収支 (単位:万・クウェイト・ディナール)

	1984	1985	1986 (1)	1987 (2)	1988 (3)
輸出	36億3,200	31億5,200	21億4,300	25億0,000	24億2,000
石油	32億5,700	28億4,800	18億5,300	22億0,000	21億1,000
輸入	20億4,200	17億8,500	16億9,800	14億0,000	14億0,000
貿易収支	15億9,100	13億6,700	4億4,500	11億0,000	10億2,000
経常収支	18億8,700	14億4,700	17億9,000	20億0,000	20億0,000

(1) 暫定

(2) 推定

(3) 予想

我が国との関係

5. 我が国との関係

5-1 概 観

現在、日本・クウェイト間には特段の懸案もなく、経済面での強い相互補完関係を中心に両国関係は概して良好である。

両国の経済関係(日本はクウェイトにとって最大の貿易相手国)にもかかわらず対日関心のレベルはそれ程高くない。国民の多くは総じて我が国に好意的である。

5-2 外交関係

1961年12月 我が国によるクウェイト国家承認

1962年2月 在日クウェイト大使館開設

1963年2月 在クウェイト日本大使館開設

5-3 経済、貿易

我が国は1986年において輸入原油の3.1%をクウェイトから調達している。また、クウェイトにとって我が国は輸出入とも1,2位を争う貿易の相手国となっている。

1987年のクウェイトとの貿易は、輸出が8億5,700万ドル、前年比29.7%減、輸入が17億9,600万ドル、前年比55.3%増となった。我が国の対クウェイト貿易収支は前年の6,300万ドルの黒字から9億3,900万ドルの赤字に転じた。我が国の総輸出入に占める同国シェアは、輸出が0.4%(前年0.6%)、輸入が1.2%(前年0.9%)となった。

日本・クウェイト貿易量の推移

(単位:万ドル)

年	日本からの輸出	日本の輸入	同収支
1978	7億7,400	24億8,200	▲17億0,800
1979	8億8,600	43億1,400	▲34億2,800
1980	12億7,300	34億5,800	▲21億8,500
1981	16億4,800	36億0,900	▲19億6,100
1982	17億9,000	16億2,700	1億6,300
1983	17億6,300	13億8,700	3億7,600
1984	14億3,200	15億8,800	▲1億5,600
1985	15億3,600	11億6,200	3億7,400
1986	12億1,900	11億5,600	6,300
1987	8億5,700	17億9,600	▲9億3,900

(出所: 通関統計)

我が国との関係

対クウェイト貿易

(単位:千ドル,ただし()内 百万円)

年 商 品	1986年		1987年		
	金額	構成 比(%)	金額	前年 比(%)	構成 比(%)
輸出総計	1,219,604 (208,137)	100.0	857,010 (125,189)	70.3 60.1	100.0
(食料品)	6,107	0.5	3,999	65.5	0.5
(原燃料)	567	0.0	573	101.1	0.1
(軽工業品)	132,746	10.9	114,647	86.4	13.4
繊維品	56,212	4.6	60,033	106.8	7.0
非金属鉱物製品	18,813	1.5	5,128	27.3	0.6
その他の軽工業品	57,721	4.7	49,486	85.7	5.8
(重化学工業品)	1,077,761	88.4	736,074	68.3	85.9
化学品	7,275	0.6	15,535	213.5	1.8
金属品	164,784	13.5	80,755	49.0	9.4
機械機器	905,701	74.3	639,783	70.6	74.7
(再輸出・特殊取扱品)	2,424	0.2	1,716	70.8	0.2
輸入総計	1,156,589 (203,944)	100.0	1,795,798 (259,542)	155.3 127.3	100.0
(食料品)	2,313	0.2	2,612	112.9	0.1
(原料品)	8,189	0.7	12,484	152.4	0.7
(鉱物性燃料)	1,124,865	97.3	1,748,450	155.4	97.4
(加工製品)	18,221	1.6	23,288	127.8	1.3
(再輸入・特殊取扱品)	3,002	0.3	8,964	298.6	0.5

(出所:通関統計)

クウェイトからの原油輸入量(中立地帯除く)

年	輸入量(B/D)	構成比(%)
1973	40.0	8.1
1979	44.0	9.1
1983	5.8	1.6
1984	8.2	2.2
1985	4.4	1.3
1986	11.0	3.1
1987	18.0	5.6

(出所:通産省エネルギー統計)

我が国との関係

5-4 経済・技術協力

DAC諸国は、1986年支出純額で368万ドルの二国間ODAを供与しており、これは全て技術協力である。主要援助国は、西ドイツ(シェア48.4%)、フランス(同40.5%)、および日本(41万ドル、シェア11.1%)である。

また、国際機関は、1986年支出純額で、128万ドルのODAを供与しており、これも全て技術協力である。主要援助機関は、UNDP(シェア97.7%)である。

我が国は、クウェイトの一人当たりGNPが高い水準にあることから、同国に対し技術協力を実施しているのみである。1987年には、48万ドル(技術協力)を供与した。

我が国のODA実績

(支出純額,単位:万ドル,()内は%)

暦年	贈 与			政府貸付	合 計
	無償資金協力	技術協力	計		
1983	- (-)	37 (0.0)	37 (0.0)	- (-)	37 (0.0)
1984	- (-)	29 (0.0)	29 (0.0)	- (-)	29 (0.0)
1985	- (-)	39 (0.0)	39 (0.0)	- (-)	39 (0.0)
1986	- (-)	41 (0.0)	41 (0.0)	- (-)	41 (0.0)
1987	- (-)	48 (0.0)	48 (0.0)	- (-)	48 (0.0)

年度別・形態別実績

	1981年度 まで	1982年度 まで	1983年度 まで	1984年度 まで	1985年度 まで	1986年度 まで	1987年度 まで	1987年度 までの 累計
金 額 (億円)	3.15	0.58	0.59	0.60	0.61	0.48	0.63	6.64
研修員受入 (人)	98	10	9	6	9	7	7	146
専門家派遣 (人)	23	1	1	1	0	2	0	28
機材供与 (百万)	4.1	0.5	1.7	0.9	0.6	4.5	0.6	12.9

(出所:我が国の政府開発援助)

5-5 条 約

1962年10月 日本・クウェイト航空協定
1967年 日本・クウェイト司法共助取極

5-6 在留邦人関係 (1988年10月)

邦人数 706人
日本人会,日本人学校あり。
本邦進出企業 57社

5-7 友好団体

日本・クウェイト協会 (在本邦) 設立。
現在,クウェイトにおいてもクウェイト・日本協会設立の動きがみられる。

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

食品は全般的に入手可能である。クウェイトは食品のほとんどを輸入に頼っていることから世界中のものが見られる。オレンジ、リンゴなどは収穫期の異なる国から時期をずらせて輸入し一年中入手できる。またクウェイトの人口構成からアラブ料理だけでなくインド、パキスタン、フィリピン料理、西欧料理まで広く食材の需要があり、スーパーマーケットの品ぞろえは豊かである。

クウェイトはアラビア湾に面しており、その沿海漁業による豊かな魚獲により食生活は豊かなものとなる。特に、エビ、ローカルロブスターは特産でもあり美味である。これらは資源保護から収穫期が10月から3月までと限られている。

食品の入手先として、近代的なスーパーマーケット、政府のコーポ、生鮮野菜・肉魚の市場(スーク)、ホールセール店、雑貨商(ドッカンと呼ばれる)があり、スーパーは衛生上管理上も最高である。各スークは鋸やおのを用いて精肉、大魚の解体をして売っているがハエなどがたかっていて衛生上好ましくない。ただし、スークの食材は新鮮であること、格安であることから朝の賑わいはアラブの風物詩といえよう。

(2) 主な食料の出回り状況

米はカリフォルニア米、パンは食パン、ホブズ(アラブ風パン)、牛肉はアメリカ合衆国、オーストラリア産、羊肉、鳥肉までそろっている。精肉は各スーパーが行っており、客の好みにより薄くスライスすることも可能である。クウェイトはアラブであるから豚肉は入手できない。豚肉の代用としてVEAL(仔牛肉)を使うことができる。

野菜はローカル物で、トマト、キュウリ、ピーマン、セリなどがあり他は輸入によりブロッコリ、キャベツ、大根、ジャガイモ、タマネギ、マッシュルームなどほとんど入手可能である。乳製品は生鮮牛乳、長期用ミルク、デンマークチーズ、バターなど各種をスーパーで入手可能である。卵はローカル物とサウジ産、東欧産がある。夏季はスークでは高温となるためスーパーで入手した方がよい。

魚類はスーパーでも入手できるが、スークの方が種類が豊富で新鮮である。スークではアラビア湾で捕れたものが並び朝夕の市が立つ。エビ、ロブスター、いか、ズベイデイ、ハモール、キス、まれにマグロ、シマアジを入手することもできる。いか、マグロ、アジ、ハモールなどは刺身で食することができる。

生しょうが、粉わさびはあるが本わさびは入手困難である。

しょうゆ、ソース、砂糖、塩、香辛料は多種類ある。サラダ油、オリーブ油そしてマヨネーズが各種入手できる。飲料水はフランスなどから輸入しているものもあるが、クウェイト北部産の「ローダテン」というミネラル水が安く、美味である。海水から真水にする淡水化プラントの水が一般に給水されており、飲料可であるが、アラブ人は警戒して、セラミックと活性炭のフィルターを二重にして飲料水としている。配水は水道管による場合と給水車による場合がある。

酒類はイスラム教国のため原則として入手不可である。100%ブドウジュースとパンイースト菌は入手できるので工夫すれば可能である。

(3) 食料の入手

日本食品の入手先

- アフラジ:サルミヤ
海産物・大福・餃子の皮などの冷凍食品、しょうゆ、米酢、漬物、びん詰副食、米菓、米。
- スルタンセンター:サルミヤ
納豆、生がき、おでん、たらこ、魚などの冷凍食品、ラーメン、わかめ、豆腐、漬物、みそ、しょうゆ、菓子、おつまみが入手できる。
- セーフウェイ:ファルワニア
パン粉、そば、うどんなどの乾物類、まれに真ダコが入手できる。

日本食品以外の入手先

- スルタンセンターおよびセーフウェイ
これらのスーパーマーケットでは、日本食品を含めてクウェイトで入手可能なほとんどすべての食品を入手可能である。これらのスーパーに行けば割高ではあるが衛生的で快適な買物を楽しむことができる。
- 政府のコーボ(生協):各行政区域ごと
アラブ料理の基本的食材はコーボで割安な政府価格で入手できる。エジプト米、ホブズ、野菜、砂糖、香辛料、羊肉、鳥肉などは割安感が強い。コーボはスーパーマーケットのような華やかさはないがアラブ人達の活気がある。

食生活

- 肉・野菜・果物のスーク:シュエイク

肉・野菜・果物の各スークがあり、Kg単位や箱単位で買物をする。野菜はローカル物が多く新鮮である。果物は輸入保冷車から出したばかりのものなどを無雑作に積み上げてたたき売りをしている。スークでは値切るのが常識であるから、そのネゴも楽しめる要素がある。毎日開くが、金曜日の朝が賑わっているようである。

- 魚のスーク:シュエイク・各漁港

アラビア湾で捕れる各種の魚はシュエイクのスークおよび各漁港に付帯する魚スークで入手可能である。大きな魚はヒレ、頭、尾などを取除く処理もしてくれる。刺身に出来るマグロ、アジなどは希少性のため早起きして、見つけたらすぐ買うようにしないと機を逃すことがある。

- 雑貨店(ドッカン)

道の辻々に必ずドッカンがあり、駄物、菓子、アイスクリーム、卵、調味料、果物、野菜などを少量ずつ置いている。いたる所にあり火急の用には重宝するシステムである。子供達の留り場にもなる草の根社交場でもある。

1-2 調理,食器具等

(1) 調理,食器具等の入手

典型的和食器を除けば、ほとんど入手可能である。大小の冷蔵庫・冷凍庫、電気釜、オーブン、電子レンジ、トースタ、フードプロセッサ、洋包丁、まな板、アルミ大鍋、テフロン鍋、耐熱ガラス容器、テフロンフライパンなどほとんどが上記のスーパーマーケットおよび市内の電気店で入手可能である。紙皿、有名陶器、グラス、ナイフ、フォーク、スプーン等の食器等も各種入手可能である。コーヒー、紅茶のセットは良いものが入手できる。

(2) 日本から持参した方がよい調理食器具等

和食器はほとんど入手不可能である。中国の食器は入手可能であるから代用も可。包丁類も刺身包丁、出刃などは入手不可能。スリコギ、はしも持って行った方がよい。割りばしを入手できるが高価である。茶わん類も入手不可。電子レンジは日本のような高機能製品はなくタイマーと開始の単機能型が多い。

電源電圧は240V/50Hzであるが、百ボルト製品を使用するために、大小容量のトランスを入手することができる。

1-3 外 食

(1) 飲食店

料理種類	店 名	所在地	TEL
日本	慶(けい)	Kuwait International Hotel内	253-0000
アラブ	ル・タルブーシュ バームバレス	Sheraton Hotel内 サルミヤ	242-2055 573-3030
中華	ビーコック ジェドガーデン 北京樓	SAS Hotel内 KACビル隣り Salhiya Complex	565-7000 245-5497 243-3367
フランス	ファイラカ バテー アル・ブーム	Kuwait International Hotel内 Kuwait Regancy Hotel内 SAS Hotel内, ダウ船上	253-0000 562-8000 565-7000
スイス	モーベンピック	Soug Al Muttaheda	246-4571
イタリア	ピザハット ピッツァリア	サルミヤ・スルタンセンターの横 チェーン店多い	
インド	シーザーズ	Meridian Hotel横	243-1100
韓国	韓国亭	Salhiya Complex M1	243-1609

衣 料

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

乾燥砂漠気候で夏季高温乾燥, 冬季低温乾燥になるので, 夏物と冬物の両方が必要となる。夏は暑くとも強力な紫外線から肌を守るため長袖のシャツが重宝する。女性は宗教上および男性の単身出稼ぎ者が多いことから刺激の少ない服装が望ましい。男性用のポロシャツ等好みに合うものは見つけにくい。ビジネススーツは良質の生地があり仕立ても格安で入手できる。女性用の衣料も, 安価な生地で好みのデザインを安く仕立てることができる。冬は風が強く体感温度は低い。セーターおよびウールのズボン, 防寒着が必要である。アラブでは子供, 女性が丁重に扱われるためか, 子供服および女性衣料の種類は多いが, 子供服地は化繊がほとんどで, 良質のものは高価である。女性衣料は概ねデザインが派手である。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

上着のサイズはやや大きめである。下着類は日本から持って行った方がよい。運動靴から皮靴, サンドルまでそろっているが, 子供の靴はサイズが合わないこともある。紳士用として特に日本から持参する衣料は当座のスーツおよび普段着などで十分と思われる。

婦人用は特に下着, ストッキングを持参するとよい。

2-2 礼 装

(1) パーティー

大使館の関わる外交官パーティー, 日本人社会の中で行うパーティーなど, ほとんどダークスーツで十分である。婦人用としては, ワンピース, まれに和服を着用する機会がある。

(2) 式 典

大使館主催の日本の祝祭日のレセプションでは男性はスーツ, 女性はワンピース, 和服が定形である。クウェイトでの祝祭日式典に参加する機会はまれである。

(3) 冠婚葬祭

クウェイト人の結婚式は昼に公式、夜に身内のレセプションとなる場合があり、公式レセプションではダークスーツに明るいタイ、女性は明るいワンピース、スーツが無難であろう。身内のレセプションでは、ややくだけた服装でよい。歌やダンスに興じることになる。

葬式では黒かダークスーツに黒か暗い色のタイを着用する。

紳士用婦人用共に黒の礼服が一式あれば重宝する。

2-3 洗濯,仕立て,修繕,保管

(1) 洗 濯

ドライクリーニングの可能なクリーニング店がある。アイロン、電気洗濯機は各社の製品から選択でき、価格も手頃である。

(2) 仕立て,修繕

紳士服の仕立てには、良質の生地を買い、腕の良い仕立屋でスーツを作ることができる。パキスタン人が多く、仕立て屋を選べば仕上りも上々である。修繕も可能である。婦人服の仕立ては紳士用に比べて格安にできる。

(3) 保 管

乾燥気候のうえ、住居はエアコン付であるから防虫剤を入れれば十分である。

住 宅

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

熱帯砂漠性の気候下にあるクウェイトでは住居は、生活する上で最も重要な要素である。ビジネスマンの出入りの多いクウェイトは、ホテルも整備されている。市内の一等地には大ホテルがあり、展示会、講演会などビジネスの拠点として機能している。

クウェイトには、ビラと呼ばれる独立家屋、10階建てくらいの集合住宅、古くから建っている3階建てくらいの古い集合住宅があり、日本人のほとんどはビラか高層集合住宅に住んでいる。夏季の気温は50℃を越えるため、家族、特に子弟の余暇時間を考えて諸施設の整備状況をチェックした上で住宅を選定する必要がある。高層集合住宅にはほとんどプールが付属している。日本人が多く住む地域として、サルミヤおよびジャブリア地区があり、治安は良い。

(2) ホテル事情

クウェイトのホテル事情は日本と比較して、さほど差はなく、西歐式の近代的なホテルがそろっている。

ホテル名	TEL	料 金 (シングル/ツイン)
KUWAIT INTERNATIONAL	253 - 3000	28/33
HOLIDAY INN	474 - 2000	25/30
REGENCY PALACE	562 - 8000	34/39
MERIDIEN	245 - 5550	29/34
SHERATON	242 - 2055	29/34
SAS	565 - 7000	31/38
AL - SALAM	483 - 5344	18/21

(注) 料金はK.D, サービス料15%は別

(3) 住宅の探し方

住宅は斡旋業者、新聞広告、知人の紹介などにより、良質の住宅を探すことが可能である。斡旋業者としてForm Arabia 487-8009がある、家具等の斡旋も可能である。

(4) 住宅選定上の留意点

住環境として、周囲に日本人が多く住んでいること、主婦や子供の活動範囲を考慮する必要がある。子女のスクールバス利用の可否、買物の便等、防犯上、管理人付の集合住宅が安全であるが、イスラム教国であるために、危険は特にないようである。気候および水質のためか水回りパイプの老朽劣化が早いので、赤水の出ないこと。夏季には24時間のエアコン運転が必要となるため十分な設備であること。砂嵐により砂塵が室内に侵入するため窓枠、戸等が密閉構造であること。当国では家具無しが原則であるが、最低設備として、冷蔵庫、クッカー、流しが付属すること。ガスは戸別にボンベを買いとり、取替えも自己管理が必要である。

(5) 住宅の借上げ契約

契約期間は原則として1年間。無申告で延長契約成立。支払いは毎月、3ヶ月、半年間、1年間の前払い方式がある。設備補修、電気、水道費込みで2~3LDKの住宅は700-900KD相当の家賃・経費がかかる。

(6) 居住上必要な事項

イスラム教国で戒律が厳しく、かつ警察国家であることから、盗難等の必配はほとんどなく、家具等に関する盗難保険の必要は感じない。

風土、および低開発国からの労働者の雇傭の一助としてパートの使用人を雇い、清掃等に役立てることが可能である。ゴミ処理は各住宅から地区ごとに設けられた大型のゴミバスケットに収集し、さらに大型収集車が毎朝収集するので衛生的である。

(7) その他

生活様式はカーペット敷きソファとなるから幼児を帯同する場合、“ハイハイ”できるようなゴザ、薄い布団のようなものが重宝する。また、靴を脱ぐ習慣がないため、スリッパの入手は不可能である。

医 療

4. 医 療

4-1 赴任前の準備

(1) はじめに

クウェイトは、1961年の独立以後、豊富な石油財源をもとに急速に近代化を押し進めてきた。医療についても例外ではない。クウェイトをも含む湾岸諸国（バハレーン、カタール、アラブ首長国連邦等）の医療事情を知る上で重要なことは、1.過酷な自然 2.イスラム教 3.豊富な石油財源の3つである。

健康、医療問題は、赴任が決まった者にとり、特に乳幼児を連れての赴任であったり、自分自身に持病があると、大きな不安要素になる。健康は、身体のみならず、精神的にも健全であることが必要で、海外生活では自らが健康を管理するのだという自覚が求められる。

(2) 予防接種

現在、入国に際して必要な予防接種はない。すなわち何の予防接種なしに入国は出来る。しかし、入国後レジデンス・パーミット（在留許可）を申請する者には、エイズ、マラリア、フィラリア、結核の検査が義務付けられている。

クウェイトの自然環境は温酷で夏期には気温は50℃にも達するが、一般にこの地には風土病といえるものはない。コレラもインド、エジプトには多いが、それ等の国より持ち込まれる可能性はあるものの常在しない。マラリアも同様で、アラビア半島南部（オマーン）には、首都マスコットをはずれると存在するが、クウェイトでは心配ない。これは高温乾燥の砂漠国で川もなくボウフラも住めない環境を意味する。クウェイト市をはずれ、砂漠に出るとサソリもいるらしいが、ほとんど話題にのほらない。

赴任にあたり接種しておいた方がよいと思われるものは、破傷風である。当国では年間数人という発生数であるが、世界中にこの菌はおり、欧米、日本も例外でなく、しておいて損がないどころか、しておかねば損（死亡率が極めて高い）という予防接種である。また結核は、日本以上に患者がいる様である。日本での結核についての検査、BCG等済ませておくのが望ましい。クウェイトは小国で、それこそ1日あれば国内見物はすべて終わり、特に暑い夏期には外国へ出ることも多く東南アジア等A型肝炎患者の多い所へ出向く場合も考えられ、A型肝炎の予防接種を受けておくのもよいかも知れない。

乳幼児の予防接種についてはこの国は独立以後医療についてイギリスの方式を取り入れており、接種時期、回数、量など日本と多少違うが同じものを安心して接種を受けることができる。ただ日本で接種中であり、その途中で乳幼児をこちらに連れてくる場合、接種の証明書は英文で作ってくる必要がある。というのも日本語だけのものは、口でいかに説明しようにも、理解されにくく新たにやり直しということになりかねないからである。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

この国の予算の約6%が厚生省に割り合てられ1988年度はその内、28億US\$が公共無料医療に使われている。病院数は、主要国立16、診療所62、主要私立7がある。医療費は国立系では無料(個室料は1日5KDが必要)である。(1KD約450円)

私立病院は、概ね、初診料8KD、再診料4~5KD、入院料25~40KD/日等必要でX線、血液検査等行う場合、その都度会計で金を払い領収書を受け取り、X線等の窓口へ提出し検査を受けるシステムになっている。

日本人の多くは、私立病院(ハジ病院、モワサット病院等)を利用している。これ等の病院は全科もっており、日本の中規模病院と考えればよい。診察時間は午前中(8-12時)と夕方(4-8時)である。

一般的な軽病疾患そして、虫垂炎までの小手術等は私立病院で、何ら問題は無い。診察料、薬代等すべて無料の国立系病院を日本人が利用しないのは、常に患者で溢れていること、受付け等アラビア語が主であり、私立病院の方が利用し易いからである。

国立でも、特にクウェイト大学医学部附属病院(5カ所)は設備、レベルともよく、手術も腎移植など多数手がけており他のアラブ諸国からの患者も多い。

医療従事者数は、1986年で医師約2,800人、歯科医約330人、看護婦約8,000人であり、人口10万人当りの医師数は約150人、歯科医約18人となる。医師の内、クウェイト人医師は約580人で、のこりはエジプト人、パレスチナ人、インド人、欧州人医師である。

(2) 緊急時の対応

緊急時には、大学病院、国立病院、私立病院とも救急車を完備しており、24時間利用できる。重症患者は大学附属病院のムバラク病院を利用することが多い。

軽症の場合でも、各病院は夜間救急外来を持っており利用できる。また、各地区には夜間営業している薬局が毎日割り合てられており、一般薬(風邪薬、下熱剤等)を買うこともできる。

医 療

クウェイトは高温乾燥で、かつ埃の多い国であるので、脱水気味になり易くかつ眼、鼻、気管支等いため易い。普段より水分の補給をおこたらず、目洗い、うがい等の習慣を特に幼児童にはつけさせることが大事である。

4-3 医薬品等

(1) 携行することが望ましい医薬品

たいていの薬品は当地で購入することができるが、日本製はほとんどない。薬局には薬剤師がおり相談にのってくれるが、家庭一般常備薬セットは、持っていくのが望ましい。

4-4 妊娠、出産

(1) 妊娠、出産

クウェイトでは、現在までに多くの日本人女性の出産例がある。正常分娩の場合、ほとんど問題はないようである。ここでは、分娩後2日目には退院で、日本のように通常1週間程入院して、その間、乳房マッサージの仕方とか、定期的な授乳時間に赤ン坊と御対面といったものはなく、女性も早く退院することを望み、2日目には喜々として退院してゆく。

日本人女性は、とてもこのような真似はできず、病院に頼んで4~5日入院しているようである。初産の場合でも、問題はないのであろうが、退院後のことを考えると、日本で産めるのであれば、医学的なことは別として、いわゆる里帰り出産をとるのも一法かと思う。クウェイトでは産みたくないでヨーロッパに行って産むという形は、母子あるいは夫にとっても大変で避けるべきである。それならば日本に戻るのがよい。

日本で現在行われている、フェニルケトン尿症等の新生児マス・スクリーニングはこちらでは、医師が必要と考える場合は行うが、通常は行われていない。

4-5 手 術

(1) 任国で可能な手術

日本人のよく利用する私立病院では、虫垂炎(盲腸)の手術ならば問題はない。

それ以上のものは、大学病院を利用するのがよく、大学病院のレベルは相当高く、高度な医療機器も完備しており、例をあげれば腎移植も相当数(年間300~400)行われ、アラブ諸国からの患者も多い。それでも、胆石症など急性期でない慢性疾患、あるいは悪性の疾患で悪性の場合は一割を争うのであるが、日本に戻り手術が出来るのであれば、一生ク

クウェイトに住む人を別にすれば日本で受けるのが医療レベルの問題は別として、術後の経過をフォローする場合等有利である。

4-6 任国でよくかかる病気

(1) 日本人のよくかかる疾患

一番多い病気は感冒(上気道炎)である。特に冬期から夏期,夏期から冬期という季節の移り目や,夏期には一日中エアコンをつけっぱなしのことも多く,また在クウェイトの日本人学校は,幼児・生徒合わせて60人程という小さな集団で接触の機会も濃密であるため,集団発生化し易い。クウェイトは,降塵芥量之多さでは世界でも有数の地であり,常に微細な砂が舞っている。この粘土質のパウダー状の砂は,アレルゲンになるといわれ,これによる鼻アレルギーも起こりうる。またこの砂により眼,鼻,喉,等を痛め易い。

クウェイトは,上下水道が完備されており,日本人に下痢をおこす者はそれ程見ないが,サルモネラ菌などによる中毒はクウェイト全体で見ればかなりの数にのぼる。またサルモネラ保菌者はかなりいる。

特に夏場は,魚貝類を生で食べる習慣のある我々日本人は,食中毒に十分気をつける必要がある。対策として,手洗い,野菜用,魚用と2種のまな板,包丁を使い分ける。野菜はよく洗い加熱する等の注意が必要である。

(2) 風土病,伝染病

持ち込まれる伝染病はあるが,風土病伝染病はないといえる。

(3) 有害動物・病害虫

クウェイトで一番気をつけたいのは,サンドフライ(砂蚊)である。これは,砂嵐とともに飛来し,吸血する。刺された後の痒みは相当で,大人子供共,極きむしるため潰瘍を作り易く難治でしばしば日本人を苦しめる。これには抗ヒスタミン軟膏,ステロイド軟膏を合わせ使うと効果的である。このサンドフライが問題となるのは,皮膚リウマチ症(バグダッドに多い)を媒介するからである。

家庭,レストランには,ゴキブリ,蠅はかなりいる。当地で,蚊取り千香,ベープの類は手に入る。

医 療

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

クウェイトには川がなく、飲料水は海水を蒸発させ、それを地下水と混ぜ合わせて作られる。このため水質自体は問題がないとされるが、家庭では屋上のタンクに水を貯め、それを使用するため、タンクや管が古くなると水が濁る。このため使用する時は、フィルターを通し、煮沸すればより安全である。他にガソリン(1ℓ約18円)より高いミネラルウォーター(1ℓ約50円)も利用できる。

4-8 精神衛生上の問題

日本人にとり、イスラム教の風俗、習慣は、欧米文化に比べ日本での紹介も少なく、馴染みが薄いこともあり、イスラム圏に住むこと自体がストレスになる人もいる。特にクウェイトはサウジアラビアと並ぶイスラム教義の厳しい国で、酒、豚肉は禁止されている。豚肉はなくても中華料理が何となくもの足りないだけだが、酒がないとストレスがたまる人がいる。

背に腹は変えられず、ブドウジュースと砂糖、イースト菌で自家製ワイン作りにいそしんだり、ヤミを利用したりで何とかなるが、それ以上に問題なのは、イスラム世界に溶け込めず、仕事も面白くなくなり精神的に落ち込むことである。女性の場合も同様で、家庭を守る婦人は車がないと買物にも出れず、友人がいなかったり、自分の楽しみを持たないと、ストレスがたまる。自己を確立することが必要である。

<まとめ>

クウェイトの医療事情は、日本人のアラブに対して持つ、高温乾燥の砂漠とラクダの国、そして石油とイスラム教というイメージと、馴染みの薄い分だけ、レベルも低いと思われ勝ちであるが、実際は豊富な金と、外国人の流入、クウェイト人の新しいものに対する興味と姿勢が、日本人の想像する以上に立派なシステムを作っている。欧米、日本に比べパラメディカルスタッフ(検査技師、X線技師)等選れているが、少なくとも発展途上国のレベルではなく、日本人にとっても病院はかかれぬ所ではなく、かかれる所である。

5. 教 育

5-1 教育事情・入学手続等

(1) 一般事情

日本人子女のために1972年から日本人学校がクウェイト日本人会により開設運営されている。教師は日本政府から11名派遣されており、幼稚部、小学部、中学部がある。

(2) 日本人学校 Tel 531-4239

SURRAH AREA ALI BIN ABI TALIB St.

入学手続に必要な書類等は、パスポートの写し2部、写真4枚、在学証明書、通知表、指導要録の写し、健康診断票、歯検査票。入学金50KD、授業料65KD/月(幼稚部は70KD)通学はスクールバスによる。4月入学3学期制。

(3) 現地校(幼稚園を含む)

American School	561-8623	SALWA
Sun Shine School		SALWA
English School		SALWA

現地校の入学金、授業料は900KD~1200KD程度であり寄付等もあり高額である。現地校高等部への編入は、入学資格および語学力の点で困難である。

5-2 教育関係施設

(1) 図書館

日本人の子女は概ね、日本人学校の図書を利用している。

(2) スポーツ施設

サッカー場、テニスコート、体育館、アイススケート場などが地区ごとにあり、利用が可能である。

5-3 家庭学習

(1) 家庭教師

英語、フランス語の家庭教師は可能であるが、日本語による家庭教師の調達は不可能である。

教 育

(2) 通信教育

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

毛筆用具, 折り紙, 彫刻刀, 低学年用マス目ノート(国, 算), 辞典, 問題集, ドリル。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

使用人としては、インド人、パキスタン人、バングラデシュ人、フィリピン人等の出稼ぎ労働者を、パートタイムで雇用するのが一般的である。

週に2・3回程度(1回約3時間)で、掃除、洗濯、アイロニング等を依頼して給料は30~40KD程度。使用人を探すのは、口こみによるものが主であるが、かつて当地日本人が雇用したことのある人等信頼のおける人を雇うのが良い。使用人のスポンサー(身元保証人)になると、帰国航空賃の負担等の義務を生じるのでパートタイムによる方法が良い。

雇用条件については、パートタイムであれば口頭でも良いが、住込み等の場合には無用のトラブルを避けるため、書面にして明確にしておいた方が良い。

なお、年少子女を同伴する場合、日本より家事補助者を同伴する必要性はなく、パートタイムで雇っている使用人にベビーシッターを依頼するのが一般的である。その際の時間給は1KD程度。

6-2 運転手

交通事情が悪いので運転手を雇うのがベターであるが、人選には注意が必要。なお、運転手は英語を解さない場合が多い。給料は、フルアランドで月100KD位。

6-3 メイド

フィリピン人を中心に雇用は容易である。一般的に住込み(食事付)の場合、大学卒業程度で月70KD程度、パートタイムの場合、月40KD程度である。住込みの場合、任期中に1回帰国の請求を受けることもある。一般家屋には、たいていメイドルームが備わっている。

6-4 庭師/ガードマン等の雇用

メンテナンスが必要な程の庭がある家は少ない。
ガードマンは不要である。

交通事情

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

クウェイトでは鉄道も国内空路もないため、車に頼るしかない。

クウェイト市と南部をつなぐ道路網は整っている。制限時速は市街部で45km, 高速道路で80~100kmとなっているが、スピードを上げるのは普通。車は右側通行である。

運転者と車の必要書類は常に携帯しておく。警官の検問の際、それがないと罰金。シートベルト着用は義務であるが、法の適用はゆるい。ただし、飲酒運転の取締まりは厳しい。

クウェイトは世界でも交通事故による死亡が最多の国である。いいかげんな運転が多く、特に高速道路は危険である。冬季の雨は、油に汚れた路面を滑りやすくするので注意が必要。

(2) 自家用車を利用する場合

自動車運転上の留意事項は以下の通り。

- ① 運転免許証のほか、シビルIDカードの常時携行が必要。また、車中には、自動車検査証(ブルーブック)、保険加入証を常時備え付けておく必要があるほか、交通安全の見地から地図、懐中電灯、事故表示板を備え付けておくが良い。
- ② 全死亡原因に占める交通事故死の割合は18%(1988年)と地界第一位(我が国は2%)である。死亡事故の大半はスピードの出し過ぎによるものであり、当地での運転は、まず、車間距離を十分にとり、スピードを控え目にし、余裕をもった運転に留意することが肝要。

(3) レンタカー等を利用する場合

多発する交通事故、過酷な気候等を考慮すると、メンテナンスを委託できるレンタカーは望ましい。料金は、24時間当り小型車で7.25KD, 大型車で15KD程度。ドライバーは、8時間当り12KD。

(4) 道路マップ

道路マップはない。市街図があるが、都市の発展が早いので必ずしも正確でないところがある。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

交通マナーは良くない。

特に気をつける点をあげると

- ① ロータリーへ入るとき
- ② ウィンカーを出さずに曲がる車が多い
- ③ 二重追越しなど無罪運転が多い。

なお、交通事故が発生した場合には、現場警察官の多くは英語を十分に解せないため、アラビア語を解する現地職員に現場臨場させる必要がある。

(2) 救急病院

24時間体制の救急病院として

Amiri Hospital TEL 2450005

Mubarak al Kabir TEL 5312700

がある。

(3) 盗 難

盗難、傷害等の犯罪はほとんどなく、治安は良い。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

車は右側通行。交通マナーは極めて悪く、相手の不注意によるものであっても違反や事故を起こすと、出国許可が下りないこともある。

(2) 対処方法

交通事故の多くはスピードの出し過ぎであり、前後はもちろん左右にも車間距離をとることが大事である。

7-4 車の修理

(1) 部 品

基本的にすべてのパーツは入手可能である。ただし、部品によっては、入手に日数を要するものがある。

(2) 修理工場

系列化されたディーラーの修理工場がある。個人(ガレージ)のものもあるが、前者に任せた方が安心である。

通 信

8. 通 信

8-1 電 話

(1) 一般事情

人口増および住宅増を反映して電話網の拡充が進められており、交換機容量は58万端子を有し、現在約30万加入電話の規模である。

人口集中地区では交換機の増設が間に合わずこふくそうの発生することもある。国内利用料金は年額30KD固定料金で格安のため、通話トラヒックは増大している。番号は7桁で構成されている。番号案内は101,警察112,消防105,救急車531-2700が特番である。

一般加入電話の他に自動車電話も普及しており、国内一円をカバーしていて非常に便利である。砂漠のテントでキャンプをする時に不足するものを仲間に電話して容易にアレンジが可能で、トークの国ならではのである。

(2) 国際電話

国際電話は、ダイヤル即時接続と、オペレータ接続とがあり、日本へはダイヤル通話でも容易に接続可能である。ダイヤル即時通話は次のようにダイヤルして接続される。00-81-3-2114321。00は国際接続,81は日本の国番号,3が東京エリアコードそして加入者番号で構成される。料金は1分間0.9KDで、日本とは常時接続が容易であるが、時差6時間を考慮する必要がある。オペレータ接続は021,022をダイヤルすることにより通話を申し込むことができる。

オペレータ接続はダイヤル即時通話が困難または禁止されている対地に利用されるため接続までかなりの時間がかかる。またオペレータ接続通話は当国に散見される電話局のブースからも可能であり、窓口で身分証明書を提示の上、前金を預けて順番を待つ。この方法は、加入電話を所有していない外国人労働者が利用することから混んでいる。

年定額料金制のためか、当国では公衆電話は極めて少ない。空港電話局、政府機関、郵便局など公共性の高い所だけに設置されている。

8-2 電 信

(1) テレックス

テレックスは確実な記録通信媒体と考えられており、当国では広く文書効力を認められている。回線状況は良く接続も容易である。

テレックスの送信は、各企業の端末、電話局、ホテルのビジネスセンターから可能である。電話局では、原稿を窓口担当者に提示して電文を作成してもらい、確認すれば5KDを前払いし、送信後精算される。ホテルでも同様であるが、電文作成は本人にも可能である。

(2) ファクシミリ

電話網を経由して送信されるファックスは簡易迅速な記録通信であるため、広く利用されている。各企業、電話局、ホテルからの送信が可能であるが、ホテルからの送信の場合、高価である。

(3) 電 報

電報は電話局から打電できる。

8-3 郵 便

(1) 一般事情

クウェイトの郵便は、私書箱配達が主流であるが、最近配達も可能となった。日本との郵便日数は10日程度である。航空郵便の料金は20g以下、日本宛0.15KD、書留にすると0.50KD程度である。中央郵便局 General Post Officeで小包を発送する場合は白布で包み縫合せねばならない。

日本からの郵便小包はShwaikh郵便局に着き、到着通知を受ける。通知書を持参すると税関史の前で開梱し、雑誌、医薬品、ビデオテープが発見されれば、検閲の対象となり、情報省、保健省に送付される。倫理上、イスラム教義上、問題なければ1週間程度で受領可能である。

(2) 課 税

新品の販売用は5%の課税が原則である。個人消費財であれば減免の可能性はある。

パソコン、モデム、電話器等の通信機器は厳しくチェックされている。JICA専門家の場合、通信省の協力により問題なく通関ができる。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

アラビア語紙として、アル・ライ・ラム、アル・シャサ、アル・カバス、アル・ワタン、アル・アンバの5大新聞がある。また、英字紙としては、クウェイト・タイムズおよびアラブ・タイムズの2紙がウルドゥー語・マレーシア語の特別ページ付きで発行されている。なお、新聞の戸別配達もある。

(2) 本邦日刊紙

O.C.S(海外新聞普及協会)の取り扱いあり。

(3) 欧米紙

ヘラルド・トリビューン、ファイナンシャル・タイムズ他タイム、ニューズウィークなどは本屋等で入手可能。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ラジオ放送は、Kuwait Broadcasting 1局で放送している。放送は、アラビア語、英語、ウルドゥー語、ペルシア語の4か国語で行われている。FM番組があり、ステレオ音楽、歌を国内周波で放送している。

(2) ラジオジャパン

NHKの短波放送は、午前7時、午後7時および午後11時に入る。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送はBBC。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

テレビ放送は情報省の管轄下におかれ、Kuwait Televisionの2局2チャンネルで行われている。夕方、英語によるニュース報道がある。アラビア語放送がほとんどであるが、英語のテレビ番組もある。時々、日本の古いアニメ(鉄人28号等)などが放送される。

(2) テレビ受信

テレビのカラー受像方式はPALを採用しており、日本のテレビをそのまま持って来ても、当地のテレビ放送を見ることはできない。ビデオデッキ、モニターテレビともに、PAL方式とNTSC方式の両方の機能を持った「2or3」システムのを準備すると良い。

10. 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10-1 映画・演劇

(1) 映画館

インド映画が主であるが, 数多い映画館のうち, たいていひとつは洋画を上映している。

(2) 劇場

素人劇団の芝居に人気があり, 内容的にもまずまずの水準であるが, 日本人が楽しめるようなプログラムはない。

10-2 出版・書籍

(1) 一般事情

新聞は, アラビア語紙5紙および英字紙3紙の他, ヘラルド・トリビューン紙等欧米紙も発刊されている。

週刊誌はタイム, ニュースウィーク等がある。月刊誌としてはリーダーズダイジェストなどがあり, その他にもたくさんある。

一般図書もイスラム諸国の常として宗教上問題となるもの(イスラエル関連)を除けば多岐にわたって販売されている。

インターナショナルホテル内にある日本ラウンジには, 多数の小説・文庫等があり利用できる。ただし, 新刊書は少ないので読みたい本は自分で選んで, 持参した方がよい。

(2) 書店

クウェイト市で最大の書店は, プラザホテル内にあるKuwait Book Shops Co (TEL 2434226)。その他にも多数ある。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

クウェイト大学には外国人のためのアラビア語講座(無料)があり, 申込みは9月, 3月の年2回 (TEL 4811188)

ブリティッシュ・カウンシルには英語の講座があり, 申込みは9月, 1月の年2回 (TEL 2515512)。

(2) 家庭教師

アメリカンスクールなどで紹介してくれる。英米大使館等の職員がアルバイトとして行っていることもある。授業料は個人教授の場合, 5~7KD程度。

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10-4 文化活動, 文化施設

(1) 一般事情

クウェイトの中央にある国立博物館は, 小規模ながらも湾岸屈指の博物館でイスラム文化を紹介している。

(2) 日本・任国友好協会等の有無と活動の内容

日本・クウェイト友好協会 (在日本) 設立。

現在, クウェイトにおいても, クウェイト・日本協会設立の動きがある。

(3) その他の文化活動, 文化施設

極めて制限的であるが, 各国の大使館が自国の文化を紹介する催し物を行うことがある。

10-5 写真・ビデオ

(1) 写真

フィルムはフジカラー, コダック等が出回っており, 価格も日本とほとんど変わらない。1時間フォト等もある。

(2) ビデオセット

夏期期間は酷暑のため, 外出が困難であり, 屋内にいる時間が多くなるため, ビデオテープ (日本のテレビ番組を録画したもの等) を各人の好みに応じて若干持参すると良い。NTSC, PAL, SECAMいずれも使用可能であり, 形式はもちろんベータ・VHSいずれも可能。なお, ビデオデッキは日本より当地で5~8システム (オートボルトテージ) のものを購入した方が良い。

市販のビデオ (1巻4~5KD) はいずれもPAL方式。著作権が設定されていないので海賊版であり, 最新のものも入手可能である。ただし, 宗教上の理由により輸入されないものも多い。

(3) ミュージックテープ

種類は少ないがあらゆる分野のミュージックテープが入手可能である。ただし, アラブボイコットのためCBS関係は入ってこない。

10-6 音楽観賞, 演奏, 民族楽器

(1) 音楽会, コンサート

西洋音楽のコンサートは時々あるが, 必ずしも一流の演奏者とは限らない。

(2) コーラス, 演奏グループ

クウェイト人のグループに関する情報は少ない。有名ホテルのダイニングルームでB.G.Mを奏でるグループがある。なお, 当地日本人会に女性によるジャミーラコーラスというグループがある。

(3) ピアノ等音楽教室

ピアノは特定のメーカーに限定はされるが当地にて入手も可能。

(4) レコード

ほとんど見かけない。

(5) 民族楽器

ウードというギターのような弦楽器や各種の笛, 太鼓等がある。

(6) その他の楽器

基本的に楽器に関する情報は集めにくい。

10-8 趣 味

(1) 園 芸

日本の野菜(青じそ, 三つ葉, ニラ等)の種子を持参して屋内プランターで栽培すると, 日本の味を楽しめる。観葉ないし観賞用植物は当地で求めることができる。

(2) 釣 り

アラビア湾で海釣りを楽しめる。釣道具は当地で手に入る。鯛, まなガツオ, ズベイディ, ハムール等が釣れる。

10-9 娯楽, 遊戯等

(1) 娯楽, 遊戯, ゲーム

一般に娯楽施設に乏しいが, ホテル等にプール, テニスコート, スカッシュコート, ボーリング場等の施設がそろっている。また, 乗馬, 海洋スポーツも盛んで, ゴルフ場(コースは砂を油で固めたもの), アイススケート場(年中無休)もある。郊外には, ディズニーランドを模した官営の大型遊園地がある。

日本人間では, ゴルフ, マージャン等が楽しまれている。

(2) 芸能興行

政府招待事業として, 数は少ないがある。

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10-10 スポーツ

(1) ゴルフ

ゴルフ場として

- Hunting & Equeotrian Club (TEL 4717271)
- Ahmadi Golf Club (TEL 3983650)

の2つのゴルフコースがあり, 割安にゴルフが楽しめる。ただし, 砂浜ゴルフである。

(2) テニス

各ホテルに施設はあるが, 会員制が一般的である。

(3) スイミング

各ホテルにプールがある。また, クウェイトにはすばらしい海岸が多く, 公共の海水浴場にはプール, レストラン, 休憩所などの諸設備がある。

(4) その他のスポーツ, 用具, ウェア

スカッシュ, 乗馬, アーチェリー等のスポーツが楽しめる。夏期には, 海岸線が長いので各種のマリンスポーツが楽しめる。クウェイト市の外縁部に沿って多数の“Sea Clubs”があり, ウィンドサーフィン, 水上スキー, スキューバダイビング, ヨットなどができる。

用具, ウェア等は, 何でも当地でそなえることができる。

(5) スポーツクラブ

主なスポーツ施設は次のとおり。

Hunting & Equeotrian Club	TEL 4717271
Ahmadi Golf Club	TEL 3983650
Ice Skating Rink	TEL 2411150
Al Kadisiya Sports Club	TEL 2552322
Al Arabi Sports Club	TEL 2553455

10-11 風俗営業

一切ない(そもそも, 風俗営業が成り立つ風土ではない)。

10-12 子供の遊び

子供用玩具, 乗り物等は, 当地にて何でも入手できる。

11. その他のサービス

11-1 美容院

一流ホテル内には、たいてい美容室が設けられているが一般的に値段は高い(特にパーマ代)。「ソフトにかけて下さい」と頼んでも強くかかってしまうので、用心が必要。パーマ代は15~40KD, カット代は3~5KD。

11-2 理髪店

美容院と兼ねているものが多い。3~5KD程度。

11-3 日本より持参した方がよい美容・理髪用品

ヘアートニックが当地にはない。とくに女性の化粧品については、当地にても入手できるが、日本人に合ったものは見つけにくいので、自分に合ったものを持参した方がよい。ホームパーマをかける場合、ロッドは日本から持参した方がよい。

観 光

12. 観 光

12-1 地方旅行上の注意事項

国内旅行に関し、特に制限はない。ただし、常時パスポート、身分証、滞在許可の携行が必要。軍事、石油施設近辺等の特定地域は関係官庁の許可が必要である。注意事項としては次の通り。

- 写真撮影の制限

他の中東諸国同様、治安上、重要防護施設であるシュウエイク、シュクイバ両港湾施設、クウェイト空港、軍関係施設、および石油関係施設は写真撮影が禁止されている。また、禁止されていないが、「アバーヤ」を被った女性の撮影は失礼にあたり、また無用の物議をかもしおそれもあり避けるべきである。

- 風俗、習慣、国民性に関する留意事項

イスラム教信者は、随所で日に数回礼拝を行うので、礼拝の際は、その直前を横切ったり写真を撮ったりしない。

12-2 主要観光地、保養地ガイド

(1) 主要観光地、保養地

クウェイトの主なホテルは次の通り。

ホテル名	電話番号	宿泊料	
		シングル	ダブル
インターナショナル	2533000	28	33
ホリデー・イン	4742000	25	30
リージェンシー	5628000	34	39
メリディアン	2455550	29	34
SAS	5657000	31	38
シェラトン	2422055	29	34

(注) 宿泊料の単位はKD。サービス料15%は別。

クウェイトの代表的観光コースをあげれば次の通り。

<半日コース>

〔北〕 ラクダスーク/ダウ船造船所/エンターテイメント・シティ/
レッドパレス

〔南〕 ファハヒール市/ディスプレイセンター/精油施設/
ベドウィンスーク/石油積出湾/クウェイトタワー

〔車〕 ファイラカ島/クウェイトタワー

〔市内〕 ビジネス街/シーフパレス/オールドスーク/国立博物館ま
たは民族博物館, タリク・ラジャブ博物館, 自然科学博物館/
動物園/サドウ・ハウス/クウェイトタワー

<全日コース>

上記半日コースの内, 適当な2コースの組合せ。

市内のみどころ

● クウェイト国際空港

1979年完成。設計は、丹下健三博士。

ロビーには、入賞したクウェイトの児童画をあしらった日本の国際児童画展のポスター等も目につく。

年間約三万便の発着があり、二百万人の乗降客が利用する。

● ファイラカ島

クウェイト市の沖合約30キロに所在。ホーバークラフトで片道30分。

1953年、デンマークのビビー博士率いる調査隊が同島を発掘、紀元前2500年頃の滑石の印章等を発見。紀元前2800年頃より、アッシリアに併合される頃670年頃まで、交易と海上交通の要衝。(デルムーン文明)

紀元前400年頃、アレキサンダー大王が東方遠征の際建設したゼウスを奉る神殿の遺跡もある。

● シーフ・パレス

首長が執務する宮廷。一般見学者には非公開。市の中央に所在。

建物の最も古い部分は1903年建設、大部分は1940~50年代に改築。1983年の火災までは、1915年当時の内装をそのままにとどめていた。

附随する塔には、黄金を用いたといわれる時計台が設けられている。

● 議事堂

市の中央に所在。一般見学者には非公開。

現在の議会の建物は、1985年完成。設計はシドニーのオペラハウスを手掛けたジョン・アツォン。

クウェイトは、湾岸唯一の議会を有するが、1986年7月以来、首長の命により閉会されている。

● クウェイト・タワー

ベルシャ湾を望む岬の先端に所在。三本の円錐形の塔からなる。

スウェーデンの建築会社の手により設計・建設、1977年完成。

メイン・タワーは高さ185メートル。塔の中央に、外装にタイルを施したふたつの球形(展望台とレストラン)を有する。第二の塔は貯水タンク、第三の塔は照明および電波塔。

● オールド・スーク

シーフ・パレスに隣接。アラブの市場のたたずまいを今日に残す。

生鮮食料品、雑貨、衣類、貴金属を商う店が軒を並べる。またこの地区の両替屋では、世界中の通貨の両替ができる。

- サドゥ・ハウス

1979年、クウェイトの篤志家が、ベドウィン(アラブの遊牧民)の芸術の保存を目的として設置。国立博物館に隣接。

改装した伝統内クウェイトの住居で、ベドウィン芸術の展示、実演、即売を行う。

- 博物館

開館時間等は、その都度確認することが望ましい。

- (1) 国立博物館

1983年新館完成。市の中央に所在。

ナサー・サバーハ・アル・アハド夫妻のコレクション約千点(イスラムの美術品)を展示。湾岸屈指の博物館。

- (2) 民族博物館

クウェイトの出土品、民芸品の展示。前述のファイラカ島の出土品の他、クウェイト伝統産業の真珠採り、ダウ船等も展示されている。

国立博物館敷地内に所在。

- (3) タリク・ラジャブ博物館

1986年開設。イスラム美術品、宝石を中心としたタリク・ラジャブ氏のコレクションを展示する私立博物館。ジャブリア地区所在。

- (4) 自然科学博物館

クウェイトの自然、ベドウィンの生活、石油産業関連の品を展示。

市の中央に所在。

- レッド・バレス

第一次大戦直後の1919年、サウディアラビアの攻撃にさらされたクウェイトは、保護条約の当事国イギリスに救われる。その際のクウェイトを守った最後の砦。赤砂を固めた砦の外観からこの名が付いた。

かつては砂漠だったジャハラ市に所在。

- 旧城壁

前述のサウジ軍攻撃(1919年)の教訓に懲りた当時の首長サーリムが、市街地の周辺に巡らした全長9キロの城壁。

当時は、5か所の手門と百メートルごとの物見の塔を有する、高さ4.25メートルの城壁であったが、1954年、市の開発のために取り壊され、今日ではその一部が市内数箇所保存されているのみである。

観 光

- ダウ船造船所

クウェイト市の西20キロに所在。

1900年代初頭より、それまでインドから購入していたこの地方特有の帆船(ダウ船)を国産化した。今日でも、零細ながら造船は行われている。ただし、材料の木材と造船技術者は、当時よりインドに頼っている。設計図を用いない独特の工法。

- エンターテイメント・シティ

前述のドーハ村に隣接して所在。

ディズニーランドを模して建設したといわれる、官営の大型遊園地。1984年開設、総工費約216億円(当時)。

- 石油ディスプレイ・センター

1938年、クウェイト最初の油田が発見されたブルガン地区(クウェイト市の南40キロ)のアハマディ市に所在。現在はクウェイト石油公社(KOC)所有。クウェイトの石油開発の歴史、現状を知るのに好適。

隣接するファハヒール市を中心に、石油精製所、石油化学工場、石油積出し港等の関連施設も多数ある。

12-3 旅 行

(1) 自動車

クウェイト市内は道路網自体は良いのだが、渋滞が問題である。概してタクシーが一般的な交通手段である。

(2) バス

バスはもっぱら地元民が使い、通常、外国人は利用しない。

(3) 鉄道

なし。

(4) 航空機

クウェイトにはヨーロッパ、インド、アジア等の主要航空会社の定期便が乗り入れており、日本航空も現在週2便就航している。

国営のクウェイト航空は、近隣アラブ諸国およびヨーロッパを中心にかなりの便を就航させている。

治安,緊急時の心得

13. 治安,緊急時の心得

13-1 暴動・クーデター等

(1) 緊急時の連絡

現在のところ,クウェイトの治安は良いが,万一暴動,内乱,地震,戦争など全く予期しない緊急事態が発生した場合,まず身の安全をはかるとともに,日本大使館に連絡をする。

日本大使館は,緊急時には,館員緊急連絡網およびこれに直結する日本人会緊急連絡網に,必要な情報ないし指示を伝達する仕組みになっている。

13-2 強盗,盗難

(1) 一般的治安状況

クウェイトは総人口の3分の2が外国人で外国人労働者への依存度が極めて高い特殊事情から,政府当局は,犯罪者即時国外退去との厳しい規制・管理政策を採っており,殺人,強盗といった凶悪犯はもちろんのこと窃盗,詐欺にいたる財産犯も少なく,一般的に国内治安は良好の状態にあるといえる。

(2) 防犯対策

過去に被害体験がほとんどないためか,特別の防犯対策を施している家庭は少ないようであり,一般的な注意にとどまる。しかし,人口の増加に伴って犯罪も増加傾向にあり,特に性犯罪は新聞にも報ぜられる例がよくあることから,女性の行動については十分な注意が必要。

(3) 被害時の心得

できる限り加害者との直接的接触を避け,物品等の被害だけに止めることが重要。被害にあったら警察に届けるとともに日本大使館に連絡する。

関連電話番号は次の通りである。

警察 緊急通報	199 (日本の110番にあたる)
病院 アミーリ病院 ムバラク病院	2450005 5312700
消防署	105
日本大使館	5312870
日本ラウンジ (日本人会)	2533000 ex 1156

13-3 火災, 風水害, 地震

(1) 一般的災害発生状況

火災は時々発生しているが, 木造建築物が少ないせいか大火には至らないようである。また, 地震はないと思われる。

クウェイトに独特のものとして「砂あらし」と「夏の熱さ」がある。砂あらしは時々発生し, 日中の場合は舞い上った砂のため全く視界がきかなくなるため, 自動車事故等が多発するので運転には注意が必要。また, 夏の暑さは50度近い状態が普通となるので脱水状態とならないよう水の補給に注意することが肝要。

(2) 防災対策

火災等に対しては一般的な注意にとどまる。砂あらし, 暑さに対しては, 専用のマスク, ミネラルウォーターを自家用車等に常備しておくことが望ましい。

(3) 被災時の心得

緊急連絡先(警察は199, 消防署は115)に連絡するとともに日本大使館に連絡する。

(4) 安全対策

我が国のように, 治安の良いところから海外に出ると, 未知の者も友人のごとく思いがちであるが, 残念ながら「性善説は通用しない」との心構えが必要な場合が往々にしてある。

クウェイトでは, 従来から治安状態が比較的良好で, 一般凶悪犯罪の発生も少ないものと見られてきたが, 私たちは常にこうした脅威にさらされているということを自覚する必要がある。

「習慣は第二の天性」とあるように, 日常的に自己防衛措置を講じることが事件の未然防止につながることを認識し, 安全な在外生活を送りたい。

出入国手続きおよび帰国手続き

出入国手続きおよび帰国手続き

14. 出入国手続きおよび帰国手続き

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

クウェイト国際空港には、ターミナルが2つあり、主としてターミナルⅠには発展途上国の航空会社、ターミナルⅡには先進国の航空会社およびクウェイト航空が発着する。したがって、通常はターミナルⅡを使う。ターミナルⅡは、1階が到着、2階が出発のためのフロアとなっている。

ライトアナウンスは英語とアラビア語の2ヵ国語で行われている。カフェテリアと3つのVIPラウンジは到着ラウンジにある。その他、郵便局と保険会社がある。電話はたくさんあるが、常時通話可能とは限らない。

(2) 入国手続き書類

入国カードは通常機内で到着前に用紙を配布してくれるので、あらかじめ記入しておくのが望ましい。

(3) 入国審査

記入済入国カードを旅券に添えて審査官に提出する。審査はGCC(湾岸協力会議)が盟国の住民とそれ以外に分けて行われる。

クウェイト入国にあたってはあらかじめ査証(ビザ)を取得しておくなくてはならない。クウェイト政府は外国人の入出国を厳しく制限しており、原則的にはクウェイト政府および企業と何らかの関係がない者は入国できないこととなっており、観光査証というようなものはなく、一般旅行者としてクウェイトを訪問するということは事実上不可能である。

(4) 税関検査

荷物検査は厳重なため通関には時間がかかる。

酒類、豚肉製品、ポルノ、その他イスラエル協力企業(モンブラン等)製品の持込みは禁止されている。見つかると没収のみならず罰金等が課せられる場合がある。ビデオ、薬類の持込みは別途許可の対象となるので(検査に日数を要する)、携行しない方が無難である。

(5) 空港内での注意事項

不用意な写真撮影は誤解を招くので注意が必要。1988年4月、クウェイト航空機がハイジャックされたこともあって、セキュリティー保持については神経質であるため、送迎等の際も注意が必要。

(6) 空港からのトランスポーテーション

空港から都心までは約16km,車で約25分。ただし,ラッシュ時間帯(朝7~8時,夕方4~5時)には20分程余計にかかる。主要ホテルには送迎サービス(要予約)がある。タクシー(すべてがエアエン車ではない)は何時までもひろえる。都心まで約4KD。なお,バスは利用しない方がよい。

(7) その他留意点

入出国にまつわるトラブルは多いので,クウェイト訪問にあたっては,クウェイトでの身元保証人(スポンサー)の電話番号を必ず控えておくこと。また,いざという時には,日本大使館に連絡をとり,アドバイスをあおぐのがよい。

日本大使館 TEL 5312870

14-2 出国時

(1) 施設(出国時の概要)

入国時の項参照。

(2) 出国手続き上の留意点

チェックインは出発時刻の2時間前に行うこと。公用旅券であるため,渡航先追加の手続きが必要。なお,査証の有効期間内に再入国すること。

14-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

帰路変更の場合はJICAの承認文書を添え,日本大使館で渡航先追加および渡航先国大使館で査証取得が必要である。ただし,短期の場合,ビザ不要の国が多いので,よく照会すること。

(2) 車の処分

後任者に引き継ぐ場合には,名義書き換えの手続きが必要となる。売却する場合には,ローカルスタッフに任せた方がよい。なお,値段は交渉次第である。

(3) 家財道具の処分

輸送業者が多数あるが,その選定に際しては,すでに利用した日本人の推薦する業者が望ましい。

出入国手続きおよび帰国手続き

- (4) 住宅の明け渡し
家主への通知は1ヵ月前が通例である。デポジットの受取りを忘れないこと。
- (5) 銀行口座の閉鎖
外貨口座は全額引出した時点で閉鎖となるので、特別の手続きを必要としない。
- (6) その他の留意事項
帰国、転居する場合には、電話の名義抹消あるいは変更手続きを行う必要があり、これを忘れると何者かに使われ退去後莫大な滞納金の支払いを要求されることとなる。

15. 私財の輸送,引取り,購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者(任国)

クウェイトでは下記の輸送業者が使われている。

輸送業者名	TEL	所在地
Bukhamseen Freight Service	2412016	P.O.Box 26815 13129 Safat,Kuwait
Alghanim Freight Air	4745533	P.O.Box 223 13003 Safat,Kuwait
Sanbouk Freight Service	2457267	P.O.Box 24632 13107 Safat,Kuwait

(2) 輸入手続き

必要書類は, B/L, Invoice, Packing List。パッキングリストには, 電気製品については生産国名, メーカー名を必ず付記すること(注)。なお, 荷物は開破検査される(船荷の検査は特に厳重)。

(注) 日本の主要メーカーの製品は, アラブボイコットリストにはふれない模様。

15-2 自動車

(1) 一般状況

クウェイトでの生活において自動車は不可欠である。

(2) 輸入手続き

自動車の我が国よりの持込みについては, 当地代理店からの通関証明書が必要となるが, 右証明書の入手には通常困難が伴い, 車の入手に長期間を要する。なお, 輸入する場合, 地元運送業者に依頼し通関手続き等を委任する。

(3) 任国での購入

中古車の市場もあるが, 当地では過酷な気候のため車の痛みが激しく, また運転の仕方にも相当乱暴であるので消耗がひどいので, 十分にチェックしてから購入すること。

新車購入は市内のディーラーから購入するのが一般的である。

私財の輸送, 引取り, 購入

(4) 任国での売却

離任する場合, 通常, 車を後任者またはクウェイト人に売却することになるが, 売却希望のPRを早目しておくこと。

(5) 自動車登録

新車を購入した場合は, 業者がすべての手続きを代行してくれる。

(6) 免許証取得

運転するには我が国免許証の番換え(約1ヵ月を要する)が必要であり, この間国際運転免許証で運転することになる。なお, 当国の在留ビザ取得後の国際運転免許証による運転は違法で, 事故の際保険が下りないので注意が必要。

(7) 保険, 税金

強制保険加入の他, 任意保険にも加入した方が良い。強制保険の有効期間は, 新車の場合3年間, その後1年毎に更新する必要がある。また, 任意保険の場合は, 有効期間1年で1年毎に更新する必要がある。日本人は当地の住友海上火災保険に加入しているケースが多い。

16. 社 交

16-1 風俗習慣

クウェイト社会が完全なイスラム社会であることから、人々の生活の基盤もイスラム戒律によるところが大きい。

クウェイト人の暮らしぶりは、石油収入の恩恵を受け、かなりぜいたくなものであるが、服装については少なくとも国内にいる限りは、伝統的なアラブスタイルを踏襲している。

来客にはアラブ・コーヒー(コーヒー豆にカルダモンを加えてあり、漢方薬のような香りがするもので、砂糖やミルクは入れない)でもてなすのが普通である。これは日本酒の盃のようなもので小量ずつ飲み、飲み終えるとすぐにつぐのがしきたりで、もう要らないという時にはカップを親指と人差し指でつまんで少し持ち上げ、その手をふるわせる。

16-2 パーティーでの留意点

特定のひととの長話しは避け、均等にあいさつをしながら、会話、食事を楽しむ。なお、パーティー主賓へのあいさつは忘れないようにすること。

16-3 来客時の留意点

クウェイト人を夕食に招待した場合、30分ないし1時間位遅れてくる人がある。場合によっては、何の連絡もなしに来ないということもある。

16-4 訪問時の留意点

招待を受けた場合、出席者の範囲(主人だけか、夫婦一緒か、家族全員かなど)および服装(フォーマルかカジュアルか)を前もって確認した上で、5~10分程度遅く出席する(遅過ぎないように注意)。

手土産等は私的な関係で、特に初対面の人を訪問する場合は日本の小物等を差し上げると喜ばれる。

16-5 禁止されている言動

クウェイトは、アラブ世界の中にあっても、サウディアラビアに勝るとも劣らず宗教的締めつけの厳しい社会であるため、非イスラム教徒の外国人は、次のような点に留意する必要がある。

完全な禁酒国であるので、酒の持込み、密造は慎しむ。

クウェイト女性にみだりに話しかけたり、写真をとったりしない。

社 交

ラマダン (断食月) 期間中, イスラム教徒は日の出から日没まで一切ものを口にしないので, 彼らの前では飲食はもちろん喫煙も控える。

モスク (イスラム寺院) に出入りしない。

左手は不浄とされているので, 料理の席などでは気をつける。

17. 任国公官庁

17-1 機関名,住所,執務時間

省庁の名称等は次のとおり。

宗教省	MINISTRY OF AWQAF & ISLAMIC AFFAIRS P.O.Box (13 - Safat) - 13001 - Tel:2466300 Telex:44735 Awqaf - KT
運輸・通信省	MINISTRY OF COMMUNICATIONS P.O.Box: (318 - Safat) - 13004 - Tel:4819033 Telex:22197 KT.Cable:"DIRGENTEL"
商工業省	MINISTRY OF COMMERCE & INDUSTRY P.O.Box (2944 - Safat) - 13030 - Tel:2463600 Telex:22682 - "Commind"
社会問題・ 労働省	MINISTRY OF SOCIAL AFFAIRS & LABOUR P.O.Box: (563 - Safat) - 13006 - Tel:2464500 Telex:30329 - "SOCIAL"KT.
公共事業省	MINISTRY OF PUBLIC WORKS P.O.BOX: (8 - Safat) - 13001 - Tel:2449301 Telex:22753 KT - Cable:"WORKS"
計画省	MINISTRY OF PLANNING P.O.BOX: (15 - Safat) - 13001 - Tel:2428200 (5 Lines) Telex:22468 - Cable:"TAKHTEET"
司法省	MINISTRY OF JUSTICE & LEGAL AFFAIRS P.O.Box: (60Safat) - 13001 - Tel:2465600
情報省	MINISTRY OF INFORMATION P.O.Box: (193 - Safat) - 13002 - Tel:2415301/2427141 Telex:46151 - Cable:"AL - IRSHAD"
石油省	MINISTRY OF OIL P.O.Box: (5077 - Safat) - 13051 - Tel:2415201 Telex:22363KT - Cable:"Petrol"KT.

任国公官庁

保健省	MINISTRY OF PUBLIC HEALTH P.O.Box (5 – Safat) – 13001 – Tel:2462900 TelEx:22729 – Cable:“HEALTH”KT.
外務省	MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS P.O.Box: (3 – Safat) – 13001 – Tel:2425141 – 2425185 Telex:22042KT – Cable:“KHARIJIAH”
大蔵省	MINISTRY OF FINANCE P.O.Box: (9 – Safat) – 13001 – Tel:2468200 – 2463600 Telex:22527/23674 – Cable:“Finance”
水・電気省	MINISTRY OF ELECTRICITY & WATER P.O.Box: (12 – Safat) – 13001 – Tel:4896000 Telex:30060 (5 Lines) – Cable:“ELECTRIC”
教育省	MINISTRY OF EDUCATION P.O.Box: (7 – Safat) – 13001 – Tel:2455454/2455621 Telex:23166 KT – Cable:“Education”
高等教育省	MINISTRY OF HIGHER EDUCATION P.O.Box: (25263 Safat) – 13113 – Tel:2425898
国防省	MINISTRY OF DEFENCE P.O.Box: (1170 – Safat) – 13012 Tel:4848300/4819720 Telex:22784
内務省	MINISTRY OF INTERIOR P.O.Box: (11 – Safat) – 13001 – Tel:4816111/4818000 Telex:22030
中央銀行	CENTRAL BANK OF KUWAIT P.O.Box: (526 – Safat) – 13006 – Tel:2449200 – 2449219 Telex:22101 – 22118 – Cable:“KUMBANK”
投資庁	KUWAIT INVESTMENT AUTHORITY P.O.Box: (64 – Safat) – 13001 – Tel:2439595 Telex:46079/46089 – Cable:“KUPIATY”

住宅庁	NATIONAL HOUSING AUTHORITY P.O.Box: (23385 – Safat) – 13094 – Tel:4717844 – 47178 Telex:46489 – Cable:“LANDUSE”KT.
農業・漁業庁	THE PUBLIC AUTHORITY FOR AGRICULTURE & FISHING P.O.Box: (21422 – Safat) – 13075 – Tel:4711155 Telex:30072 – Cable:“AGRIFISH”
クウェイト 基金	KUWAIT FUND FOR ARAB ECONOMIC DEVELOPMENT P.O.Box: (2921 – Safat) – 13030 – Tel:2468800 Telex:22025 – 22613 Cable:“AL – SUNDUK”

勤務時間

夏 午前7時30分から午後1時まで
冬 午前7時30分から午後1時30分まで
金曜日が休み(木曜日は12時まで)

17-2 関係諸団体

日本・クウェイト協会
千代田区丸ノ内3丁目2-3私書箱1679
TEL 214-4319

現在クウェイトにおいても、クウェイト・日本協会設立の動きがある。

在外日本関係機関等

在外日本関係機関等

18. 在外日本関係機関等

日本大使館 (Embassy of Japan)

住所 : Villa No.496 Plot No.9 In Jabriyah Area

(ただし, 郵便の宛名は, P.O.Box 2304 Safat 13024 Kuwait)

TEL : 5312870

日本航空クウェイト支店 (Japan Air Lines)

住所 : P.O.Box 22423 Safat 130B5 Kuwait

TEL : 2444494

なお, 空港事務所は, 4737268

19. 地方都市

各県の人口は次のとおり(1985年人口センサス)

首都	17万人
ハワリ	94万人
ジャハラ	28万人
アハマディ	31万人

なお、ファロマニアは1988年10月に新設された県であるため、1985年時点でのデータはない。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家、JICA職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本番の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。

なお、政府技術協力のために赴任するJICA役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルであり、JICAの用語による業務渡航者用に作成されていることをあらかじめご理解願います。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステイクスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしぶりを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

— アジア地域 —

1. バングラディシュ
2. ブーケン
3. ブルネイ
4. 中国
5. インドネシア
(ジャカルタ、バンドン、
ジョグジャカルタ、メダン)
6. マレーシア
7. ミャンマー
8. ネパール
9. パキスタン
10. フィリピン
11. シンガポール
12. スリランカ
13. タイ(バンコク、チェンマイ、コンケン)

— 中近東地域 —

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. ジョルダン
5. クウェイト
6. モロッコ
7. オマーン
8. カタール
9. サウディ・アラビア
10. 南イエメン
11. スーダン
12. シリア
13. トルコ(アンカラ、イスタンブール)
14. アラブ首長国連邦(ドバイ)
15. イエメン

— 太平洋地域 —

1. フィジー
2. キリバス
3. マーシャル
4. ミクロネシア
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン
7. ヴァヌアツ

— アフリカ地域 —

1. ブルンディ
2. エチオピア
3. ガンビア
4. ガーナ
5. 象牙海岸
6. ケニア
7. リベリア
8. マダガスカル
9. モーリタス
10. ニジェール
11. ナイジェリア
12. ルワンダ
13. セイシエル
14. ソマリア
15. タンザニア(ダルエスサラーム、ザンジバル)
16. トーゴ
17. ザイール
18. ザンビア

— 中南米地域 —

1. アルゼンティン
2. ボリビア(ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル
(ブラジリア、サンパウロ、レシフェ、
ポルトアレグレ、ベレーン)
4. コロンビア
5. コスタリカ
6. ドミニカ共和国
7. エクアドル
8. グアテマラ
9. ホンデュラス
10. メキシコ
11. パナマ
12. パラグアイ
(アスンシオン、エンカルナシオン)
13. ペルー
14. トリニダード・トバゴ
15. ウルグアイ
16. ヴェネズエラ

JICA

